

新年号

酪農

とちぎ



- 1 ページ 表紙
- 2 ページ 組合長挨拶
- 3 ページ 栃木県知事挨拶
- 4 ページ 青年部部长、女性会会长挨拶
- 5 ページ 東西南北（支所だより）
- 6 ページ 部課だより 生乳販売課
- 7 ページ 業務部
- 8 ページ 理事会だより・お知らせ

迎
春

謹んで
新春のお慶びを
申し上げます



新年の挨拶

代表理事組合長 菊池 一郎



組合員ならびにご家族の皆様方におかれましては、輝かしい新春を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。

さて本年は、国内農業、とりわけ日本酪農の進路を決する極めて重要な年と思慮しております。

民主党政権が昨年十一月に閣議決定した包括的経済連携に関する基本方針のもとで、政府は「強い経済」を実現するために「アジア諸国や新興国、欧米諸国、資源国等との経済関係を深化させ、我が国の将来に向けての成長・発展基盤を再構築していくことが必要である」との課題を明示し、広域経済連携の最重要地域にアジア太平洋自由貿易圏を位置付けて、国家

の命運をかけた新成長戦略の具体的取組に着手致しました。しかしながら、取組の筆頭に挙げる環太平洋連携協定(TPP)参加を視野に置いた国内改革の推進は、関税撤廃を原則とする参加要件をクリアした場合、計り知れない代償を払うことになる予見されるどころです。政府が言うところの「開国」と農業振興の両立に向けた「食と農林漁業の再生」と銘打った検討が進められており目を離せません。憂慮すべきはTPP参加をめぐる世論動向をみても参加すべきとの意見が多く、深刻かつ重大な問題をはらんだ今回の議論の渦中において、日本酪農の進路に関わる一連の動きに対し我々が為すべきこと、出来ることは何なのか、酪農乳業界を挙げて国民的議論へと波及すべく意を強くしております。農業分野に関する国内対策の基本方針が六月に打ち出されるまで、問題意識を持ってTPP論議を監視し、酪農乳業への影響と対応策を提言してまいります。組合運営の状況ですが、生乳計

画生産については昨夏の記録的な猛暑の影響もあり計画をやや下回る状況で推移し、生産回復のペースが鈍く計画割れの見通しとなっております。組合は、乳代手数料及び事業賦課金を設定し費用負担の可視化を進めておりますが、生乳生産動向は事業収支を左右する要素であり、計画達成に向けて業務の合理化や経費削減を図ってまいります。

生乳需給については、生乳生産が全国的に停滞していることから乳製品在庫の積み増しは回避できているものの、在庫水準が依然として適正水準を上回る状況にあります。飲用需要の減少に歯止めがかかっておらず、「牛乳に相談だ。」キャンペーンに続く「MILK JAPAN」運動を牛乳の需要喚起、消費拡大につなげていけるよう組織をあげて取組んでまいります。

平成二十三年度生乳計画生産の方針等をふまえた中で、出来る限り早い時期に地域別説明会を開催し、組合の生産動向や運営状況を説明のもと皆様方からのご意見ご要望を拝聴し組合運営に生かしてまいります。また、組合は創立十周年を迎えるにあたり、本年四月五日ふれあい牧場において記念式典ならびに祝

賀会を開催することを決定いたしました。関係者の皆様方へあらためてご案内いたしますのでご参集賜りますようお願い申し上げます。

昨年四月に宮崎県で発生した口蹄疫は、未曾有の被害と甚大な犠牲を伴って終息し、被災農家をはじめとする被災地の早期復興を祈るところですが、韓国において口蹄疫が再び発生したことで、酪農・畜産関係者にとって気が休まることの出来ない状況が続いております。「備えあれば憂いなし」を合言葉に家畜防疫に対する対応強化こそ自らを守り、地域を護る防衛手段として受け止めて、安全・安心な国産牛乳・乳製品の安定供給に努めていけるよう重ねてお願い申し上げます。

国内農業、酪農を取り巻く環境は予断を許さぬ状況ではあります。が、過度の不安を抱え動揺することなく意欲や目標を持って経営に専念できるよう、役員一体となつて取組んでまいりますのでご理解ご協力をお願い申し上げます。

結びに、ご家族皆様方のご健勝ご多幸をご祈念し、本年が酪農にとつて希望に満ちた未来へ跳躍する「卯年」となるよう鋭意努めていくことをお誓い申し上げます。新春の挨拶といたします。



知事挨拶

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様、あけましておめでとございます。

私は、知事就任以来、誰もが豊かさを実感できる「とちぎ」を創り上げるため、対話と協調による県民中心、市町村重視の県政を基本として、各種施策を積極的に推進して参りました。

昨年は、厳しい財政状況の中、自律的な行財政基盤の確立に向けた「とちぎ未来開拓プログラム」の実質的な初年度として、その着実な実行を図りながら、当面の最重要課題である「経済・雇用対策」

に全庁を挙げて取り組んで参りました。また、最終年度となる栃木県総合計画「とちぎ元気プラン」に掲げた目標の達成に向け、子育てしやすい環境づくりや、地域医療体制の強化を通じ、「安心な地域社会の実現」に努めたほか、「とちぎ環境立県戦略」に基づくレジ袋削減運動の展開など「地球と人にやさしい“エコとちぎ”づくり」や、「那須高原ミルク街道」をはじめ、多彩な地域資源を活かした「とちぎ食の回廊づくり」の推進など「ブランドに着目した誇り輝く“とちぎ”づくり」等に全力を傾注してきたところであります。

一方、少子高齢化の進行と人口減少の本格化、経済のグローバル化や高度情報化の進展、さらには、地球環境問題の深刻化など、私たちは今、時代の大きな変化のただ中にいます。加えて、円高の進行

など経済情勢の急激な変動や地方分権改革をめぐる動きなど、県政を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。

県では、こうした時代の潮流や社会経済情勢の変化に的確かつ柔軟に対応しながら、目指すべき将来像を実現するため、現在、新しい五ヶ年計画である栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン（仮称）」の策定を進めており、本年は、このプランのもと、新たなスタートをきることになります。新しいプランでは、政策の基本に「人づくり」を据えながら、「暮らしを支える安心戦略」「明日を拓く成長戦略」「未来につながる環境戦略」の三つの重点戦略を展開して参ります。そして、多様な主体による協働をさらに前進させる「地域とともに創る」という考え方に立ち、県民の皆様と手を携え、「人の元気」や「産業の元気」、「元気な自然」や「元気な地域」にあふれる、「安心成長環境をともにつくる、元気度 日本一 栃木県」を目指して参ります。

農業においても、本県の農業・

農村が魅力あるものとして発展していけるよう、新しい「栃木県農業振興計画」を策定し、「成長産業として発展するとちぎの農業」を目標とした施策を重点的かつ戦略的に推進して参ります。

特に、酪農については、牛乳消費の低迷による計画生産の強化や配合飼料価格の高止まりによる生産費の高騰等が続いておりますが、本県畜産振興のマスタープラン「栃木県酪農・肉用牛生産近代化計画」及び本県家畜改良の基本となる「栃木県家畜改良増殖計画」を策定し、生産コストの低減や六次産業化等の推進を図り、今後十年間を見通して酪農家の皆様が将来に希望が描けるよう各種施策を積極的に展開して参りますので、より一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、本年が皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。



新年の挨拶

青年部本部部长 小森 崇宏



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、益々ご活躍の事とお慶び申し上げます。部員の皆様、組合役職員の皆様には青年部活動に対し、格段のご協力とご指導を賜り、書面を拝借して厚くお礼を申し上げます。さて、昨年六月の青年部総会において本部部长に選出され、新体制が発足致しました。しかし、宮崎県において発生した口蹄疫の影響で、各種事業が相次いで中止となる状況でした。青年部として最も残念だったのは、酪農まつりをはじめ、それまで継続してきた消費拡大活動が出来ない事でした。

消費拡大活動は一度や二度、一年や二年で結果が出る事ではありません。継続して消費者にアピールする事が、五年後十年後、我々が酪農界の中心世代となった時に生きてくる事と考えています。また、TPPへの参加が懸念される状況下においては、単に牛乳を飲んでもらうだけではなく、安心安全な牛乳を日々生産している我々の姿、想いを理解してもらい、酪農が消費者にとって、より身近な存在になる事が必要なのではないのでしょうか。

次年度は、今までの消費拡大活動を振り返り、より魅力あるイベントを実施して、牛乳の良さ、酪農の魅力を消費者に伝えていきたいと考えています。部員の皆様には、何かとご協力をお願いする事になると思いますが、酪農の未来を切り開く為、共に頑張ってくださいませ。

最後になりましたが、本紙読者の皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げます、新年のご挨拶と致します。

新年の挨拶

女性会本部部长 廣田 純子



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、益々のご活躍のこととお慶び申し上げます。昨年中は組合役職員の皆様には女性会活動に対して、格別のご協力とご指導を賜り厚く御礼申し上げます。昨年の女性会総会にて承認をいただき新体制のもと、会員の皆様のご理解とご協力を頂き活動してまいりました。改めてまして役員一同会員の皆様に感謝申し上げます。

昨年は口蹄疫の発生に伴い畜産全体が危機感を感じた一年でした。また、夏の猛暑が続き生乳生産量も落ち込んでしまいました。このような状況の中、平成二十二年度女性会統一テーマとして「広げよう牛乳の力・広げよう牛乳の輪」

「徹底しよう記帳と防疫」を掲げ、チェックシートの記録、牧場の消毒など、防疫の大切さを念頭に安心で安全な生乳生産に取り組んでまいりました。口蹄疫の關係でいろいろなイベントが中止になり思う様なPR活動が出来ませんでした。それでも少しでも牛乳の良さを消費者の方々に知って頂く為に各支部でのPR活動や、会員自ら消費者になり牛乳を購入して頂くようお願いし消費拡大に努めました。残念ながら牛乳の消費は低迷してしまいましたが、皆様方のご協力に感謝致します。ありがとうございます。今年もご協力宜しくお願いします。

昨年十二月に女性会全体研修会をホテルエピナール那須において私ブランド塾SHINBIちとせ氏を迎え「ミルクに笑顔のやさしさプラス・ちとせのハッピースマイル講座」と題し多数の参加を頂き講演会を開催致しました。何かと明るい話題が乏しい酪農情勢の中、私たち女性の明るい笑顔で酪農を盛り上げていきながら、人と人の繋がり、出合いを大事に活動していきたいと思えます。

最後になりましたが、今年も皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げます、新年の挨拶と致します。



東西南北

那須高原支所

花の寄せ植え研修会

クリスマスに向けて

十二月一日、支所において女性会塩原・西那須野支部（八木沢孝子支部長）研修会として、花の寄せ植えが行われ、二十九名が参加しました。製作指導は、当支部長の八木沢孝子さんが行い、植え方のポイント等を詳細に説明された上で、それぞれが製作しました。材料は、安価で入手が容易なパンジーやミニクラメンを選定したほか、ゴールドクレスト等を使用し、クリスマスをイメージした寄せ植えを行いました。作品は同じ材料でありながら、個々の感性あふれる独創的なものに仕上がりが、参加者全員が満足。



「植え方や色合いによっても、様々な作品になり大満足だった」「自宅に帰ってから、花の植え替えをし

て楽しみたい」等の声が相次ぎました。今回の作品は、クリスマスはもとよりお正月まで充分に観賞できるとのことでした。参加された方の自宅には、心のこもった自慢の寄せ植えが飾られ、家族団らんを楽しみながら温かいお正月を迎えられることでしょう。

最後に、今回の研修会では支部員間の親睦も深めることができたほか、終了後は皆で映画鑑賞を楽しむ等、「楽しく学び遊ぶ」有意義な一日となりました。

宇都宮支所

支所活動推進協議会全体研修会

酪農セミナー

去る十二月七日、宇都宮支所研修室において、支所活動推進協議会（小林幸雄会長）による酪農セミナーが開催されました。

本年度は全酪連購買部酪農生産室 酪農経営アドバイザー 猪内勝利氏を講師に、「ハーブマン（牧場再生の道のり）」と題し、北海道で手掛けている牧場再生の事例を題材に、



種々の問題点の洗い出しから原因追求、そして改善までの事例を基に講演いただきました。

結論としては、「農場には日々様々な問題が発生し、それらの問題には根本的な原因があり、それらを発見しない限り解決は出来ない。問題をとことん追及する姿勢が重要。その為には、作業に関わるスタッフ全員のミーティングや観察をするコミュニケーションが大切である。また事業は人なりということである。過去と他人は変えることは出来ないが、自分と未来は変える事が出来る。お互い真摯に向き合えばどんな苦難も乗り越えられる。また信じる事が大切である。」という結びで講演が終了しました。今回の研修により、今後予想される酪農を取り巻く様々な問題乗り越えて、更なる経営向上に繋がる事を期待します。

県南支所

県南支所活動推進協議会の

全体交流会開催

晴天に恵まれた十二月一日、県南支所広場において県南支所活動推進協議会（田村順一会長）主催による全体交流会が、組合員・職員・関係業者ら百十名が参加し、盛会に開催されました。

開会式で田村会長が主催者挨拶を行い、口蹄疫などの伝染病に対

する防疫を今後も継続する必要性を訴えるとともに、

「猛暑の影響で生産量が伸び悩み厳しい状況であったが、

懇親を深め楽しんでもらいたい。」と述べました。続いて菊池組合長より、直近の酪農情勢の報告が行われ、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）対策については、政府に交渉参加の可否について慎重な対応が必要との見解を強調し、今後、国会議員や酪農政治連盟を通じ具体的な政策提言を行いたいと述べました。

交流会は牛乳による乾杯で開宴し、和やかな雰囲気の中参加者同士会話も弾み、バーベキューや豚汁に舌鼓を打っていました。最後に全員による一本締めが行われ



散会となりました。参加者は青空の下、日頃の忙しさを忘れ楽しい一日を過ごして頂けたと存じます。



部課だより

生乳販売課

十一月度組合の生乳生産量は前年比九四・〇％（一六、二一ト）、関東の受託乳量は前年比九四・二％となりました。

各支所別生乳生産量・乳質成績はグラフのとおりです。

出荷組合員数は五五〇戸（前月五五二戸、前年五七二戸）内、学校・公共団体五戸（前年四戸）でした。

十一月の関東加工率は飲用向け処理量が低調な推移にあるものの受託乳量が前年より下回ったこともあり、前年を二・三％下回る結果でした。また、関東の用途別販売数量は別表のとおりです。

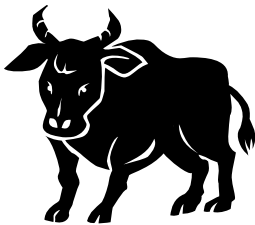
四～十一月累計では組合の生乳生産量は一三七、一七〇トン（前年比九四・五％）で、関東生乳販売から配分された月別目標（配分）数量に対しては、十一月は九七

八％、累計では九八・八％の生乳生産量で推移しております。

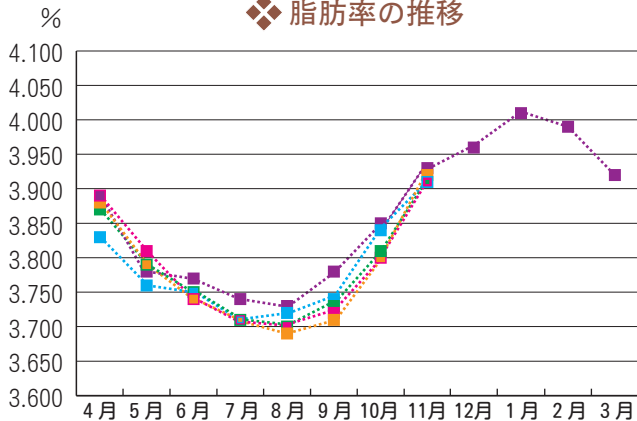
関東の累計受託乳量は七八九、七二トン（前年比九五・二％、累計目標数量比九八・八％）となりました。また、平成二十二年度都府県の生乳生産量は前年を下回ることが予測されます。

平成二十三年度生乳計画生産については、中央酪農会議の指定団体実務責任者会議及び理事会で現在協議中であります。

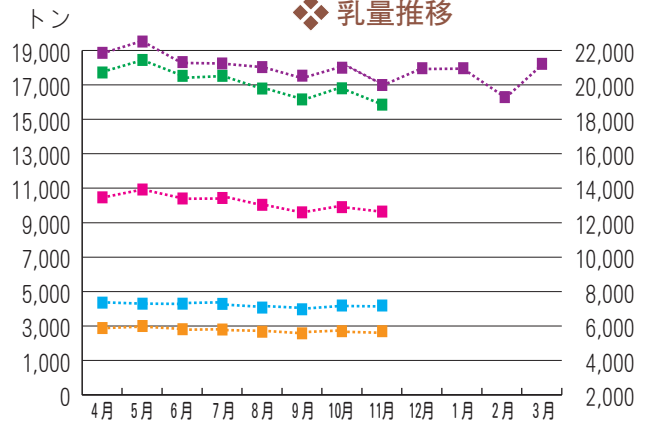
組合の平成二十三年度生乳計画生産については、関東の実施方針がきまり次第、組合の方針を決定のうえお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。



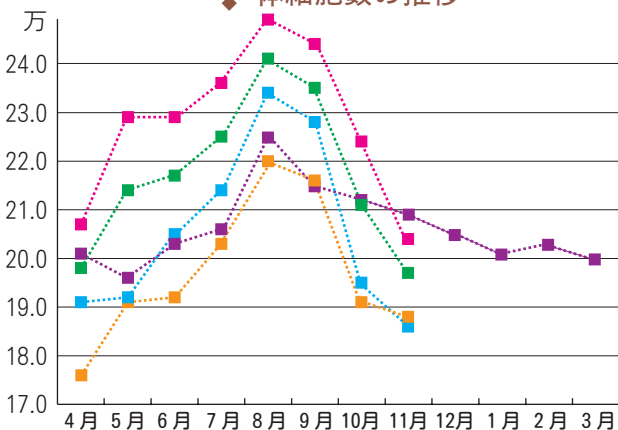
◆ 脂肪率の推移



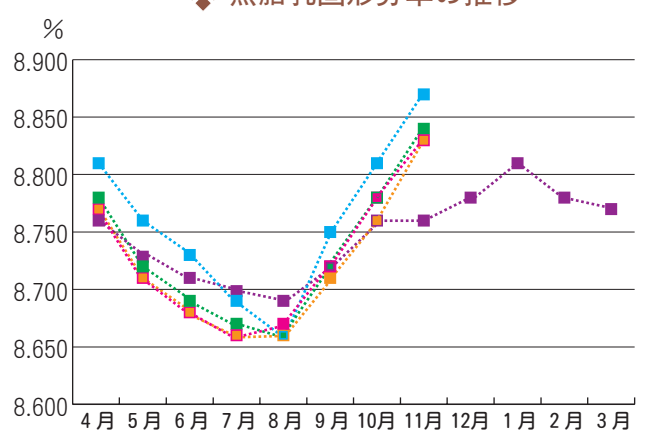
◆ 乳量推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



関東生乳販連用途別販売数量

(単位：kg・%)

用途	11月実績	前年実績	前年比	4-11月実績	前年実績	前年比
飲用牛乳向け	71,294,272	75,443,745	94.5%	586,275,197	626,162,779	93.6%
(うち学校向け)	13,181,598	12,101,249	108.9%	85,963,905	83,800,058	102.6%
はっ酵乳向け	14,647,827	14,410,165	101.6%	119,958,869	117,634,439	102.0%
特定乳製品向け(加工)	3,973,292	6,489,380	61.2%	63,078,967	66,181,243	95.3%
(うち委託加工向け)			-	4,291,590		-
生クリーム向け	2,447,001	1,734,674	141.1%	19,791,187	18,970,941	104.3%
チーズ向け	82,282	73,756	111.6%	608,168	548,335	110.9%
総受託乳量	92,444,674	98,151,720	94.2%	789,712,388	829,497,737	95.2%
加工比率	4.30%	6.61%	-	7.99%	7.98%	

業務部

『良質自給飼料増産プロジェクトの取り組み』

自給飼料生産は、大きな意味で言えば食料自給率の向上や地域の環境対策にも関わる重要な作業です。しかしながら、毎日行う乳牛の飼養管理と違って、季節を通じてその作業が変化に富み、生産物の収穫量や品質の善し悪しは天候に大きく左右されるところから、狙った形で収穫調整するためには経験則にとらわれず、実証された技術知見をもとに粘り強く取り組んでいく必要があります。「土・草・牛」の資源循環型酪農の確立は弛まぬ努力の継続が力を発揮するものと信じて疑わないところです。

そんな熱

い想いを胸に、組合では良質自給飼料を増産し、飼料基盤強化を図り、更なる酪農経営の安定向上に繋げることを目的に



「良質自給飼料増産プロジェクト」を立上げ取り組んでおります。

プロジェクトは組合職員及び親子・飼料メーカーの担当者で構成しており、専門性の高い技術の普及を目標に各種研究成果を交えた情報を整理しながら機動的に活動が展開できるよう取り組んでおります。

昨年は実証農家(モデル農家)十戸のご協力をいただき、自給飼料の品質や自給飼料生産における作物の病害や、生育状況等での問題点や改善点の確認、また土壌分析を実施し、石灰等の土改材や肥料の施肥等の肥培管理、適正品種の選定、雑草防除、収穫調整等についてまとめ、具体的な改善提案をさせていただきました。

実証農家への雑草防除に関わる具体例を挙げると、例年アレチウリの被害が深刻な圃場において、①イタリアン収穫後(堆肥投入後)、ロータリーで耕起②アレチウリが二〜三葉期(二〜三週間)になるまで待ってから除草剤(グリホサート系)を全面散布③一週間後(雑草が少し枯れた頃)に耕起④デントコーンの播種⑤播種後に除草剤(ゲザノン)を散布⑥デントコーン発芽後に再度除草剤(ゲザノン)を散布⑦雑草のひどい所には背負いの噴霧器で除草剤(シャ

ドー)を散布(手でも抜いたそうです。)しました。

これら改善提案に対する実際の取り組みにはかなりの手間と労力がかかりましたが、作業を実践していただいた結果、取り組み前と比較しかなりアレチウリを抑えることが出来、収量の増加を確認することが出来ました。

他の取り組みとして、牧草及びとうもろこしの収穫・調整方法や雑草処理方法についての基本や要点を配布文書等によって技術の普及啓発に努めました。

また、技術普及に関わる担当者個々の知識レベルの向上を図るため、デントコーン収量調査研修会を企画し、種子・飼料メーカー担当者を講師に、基本となる刈取適期の判断方法や反収の計測方法を研修いたしました。今後さらに研修で学んだことを生かしながら、皆様に貢献できるプロジェクト活動へと発展させてまいります。

飼料情勢を見ると、今年一月から配合飼料及び輸入乾草の値上げによって、自給飼料生産の重要性は益々高まってくるものと思われ、稲WCSの有効利用の推進も含めながら、本プロジェクト活動を通じて皆様へ有益な情報の発信に努めてまいります。



理事会だより

十一月度理事会（十一月三十日）

報告事項

- (一) 資金貸付について
- (二) 組合プール乳価について
- (三) 平成二十二年度上半期定期
監査報告について
- (四) 創立十周年記念式典に関わ
る業者選定について

協議事項

- (一) 十月度事業実績について
- (二) 年末手当の支給について

お知らせ

酪農共済

「酪農ハイ・メディカルSUPPORT」

加入者の皆様へ

掛金が二十三年三月から値
上げされます。

前回改定（平成十九年三月一日）
では、経営努力により掛金の据置
きで対応してまいりましたが、平
成二十三年十月からの損害保険会
社一斉の料率改定に伴い、今回は
やむをえず掛金が値上げとなりま

した。

基本コースが月額三千四百円
（二百円の値上げ）、充実コースが
月額五千円（二百円の値上げ）
となります。

なお、掛金改定後は食中毒によ
る給付が新しく補償対象になりま
す。

また、ご不明な点が御座いまし
たら支所等にお問合せ下さい。

那須だいすき牛乳パンが新発売

十二月十六日より、栃木県内の
セブンイレブンにて「那須だい
すき牛乳パン」が新発売されまし



価格
1個135円

た。セブン&アイホールディング
スは、地域食材を生かし安全・安
心な商品の開発を目指しており、
当組合の「那須だいすき牛乳」を
使ったパンを始め、プリン・シュ
クリーム等様々な商品を開発し販
売しております。今回の「那須だ
いすき牛乳パン」の特徴は、「那
須だいすき牛乳」でパン生地を練
りこみ焼き上げた商品で、柔らか
くやさしい食感で、ほのかに甘く
深みのある味わいが特徴となっ
ております。是非ご賞味下さいま
す。様お願い致します。



12月ホクレン初妊牛市場成績

〔単位：頭、千円（税込）〕

市場名	開催日	成立頭数	129	14	416	451 ~500	501 ~550	551以上
十勝	12月7・8日	1017	533	38	93	180	274	432
北見	12月9日	513	517	5	25	129	244	110
南北海道	12月10日	81	531	0	6	15	29	31
釧路	12月15日	354	516	14	35	90	95	120
根室	12月16日	717	556	6	21	88	196	406
豊富	12月17日	416	507	15	45	123	134	99
合計		3,098	530	78	225	625	972	1,198
前月		2,762	503	122	394	797	854	595
前年同月		2,555	492	140	412	866	800	337

※上記金額にはE T妊牛価格を含みます。

家畜市場成績

平成22年12月

〔単位：円（税込）〕

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
西那須野 15日	ホルス雄	110	57	72,450	110	40,764
	F 1 雄	66	52	198,450	47,250	168,080
	F 1 雌	63	51	154,350	42,000	116,733
館林 17日	ホルス雄	9	91	50,400	35,700	41,883
	F 1 雄	14	93	236,250	154,350	195,825
	F 1 雌	22	90	178,500	119,700	150,103

